

先輩
移住者の
声

水、土、空気、ずっと変わらないものが、
この地にはありました。

中村理木工所
ホームページ



中村理木工所
中村理さん

私の出身は兵庫県ですが、飛騨高山で木工と漆を学び、家具を作っていました。モノ作りをする上で、私が目指すのは千年先まで続くモノ。樹齢300年の木を切り刻んでいると、家具や建築など、現在のスピードな業界では、この仕事はとても成り立ちません。だけど竹の生育は早いのでショートスパンで使える。そうやって木だけでなく、竹の力を借りて、組み合わせることで、自分の目指すモノ作りが可能になるのではと思っています。そのためにも木と竹が豊かな大分県を移住先を選びました。最初は杵築の市内にマンションを借り、そこを拠点に家探しを始めました。日出町だけでなく、国東半島全域から別府市までいろいろ周りしましたが、最終的には2016年に日出町の山の上に工房を構えました。決め手となったのは何だったのか。正直、タイミングと直観としか言えません。ちょうど家を探していた時、この地で「青空市場」が開かれていて、野菜を作っているというご婦人たちにお会いしたのですが、それが皆さん101歳、94歳、86歳と70歳代なんです。一驚くほどお元気な若々しい。そのご婦人たちからここに住んだらええよ、良い水が出るよ」と勧められました。確かにこ

の町は名水の里。水だけでなく、土も空気も素晴らしいものがこの地にはありました。良い水、土、空気というものから育まれた「コミュニケーション」は、良い気を感じます。そんな気を持つ地域と自分の感覚が、まさに「気が合った」としか言いようがない気がします。
最初は一人住んだ家でしたが、日出町の女性と結婚し、今では1歳になる息子もいて家族ができました。この地に骨をつまめる思いで、九州の巨木や日出の竹を使い、木は木らしく、竹は竹らしく、生命材料の可能性を引き出せるよう日夜制作を続けています。



先輩
移住者の
声

生き物たちのおかげで自然のリズムに
合わせた暮らしができるようになりました。

松澤さんの
朝市エッセイ



日出町役場農林水産課水産専門員
松澤京子さん

日出町には2015年の8月に『地域おこし協力隊』第1号として京都府から移住しました。日出町は母の故郷で祖母の家があり、子どもの頃から夏休みや冬休みに来る場所でした。京都では派遣の仕事が切り替えの時期にあったタイミングに、たまたま日出町が地域おこし協力隊の募集をしているのを発見。その時、何をやるのか、したいのかもわからないまま思い切って応募しました。
もともと自然や田舎が好きで、学生時代、環境教育を専攻していたこともあり、食や農、水産にも興味があり、また祖母亡き後の20年近く空き家になっていた家を活用したいという夢も膨らみました。協力隊としての最初の活動は地域の行事やイベントなどのお手伝いをしながら、自分が体験したことをSNSで発信したり、新聞を作ったり回覧板に入れていたり、そんな情報発信を行うことで町に馴染んでいきました。3年目からは役場の農林水産課で町の特産魚「城下かれい」に携わることに。そこで出会ったのが日出町の「お魚博士」こと上城義信先生です。先生との出会いは私の人生を大きく左右するほど貴重なものでした。師匠と弟子で「コンビ」をやりながら、楽しく

学ばせてもらい、今ではカレイの餌やりから育てて放流するまで、一人でこなせるほどになり、我が子のようにカレイを見守っています。協力隊の任期終了後は水産専門員として役場で働いています。2020年はカレイの人工授精に成功するなど、出会ったことのない光景を目の当たりにし、本当に感動しました。
今は祖母の家に住み、犬を飼い始め、畑も作り、竹林を開拓して祖父がやっていた梨園も復活させようとしています。移住して6年になりますが、あの時思いきって応募して本当によかったと思います。様々な体験をして、京都では考えられない自分も発見しました。この町には魅力的な人、創造的な人が多彩で、それぞれが素敵なライフスタイルを送っています。のどかで大らかな土地柄が、人の可能性を引き出させてくれるような気がしています。



まだまだある!
日出町の
魅力

水がおいしい

日出町では上水道の多くが湧水で賄われており、「蛇口をひねるとミネラルウォーターが出てくる」と言われるほどに水がおいしいです。

経塚名水



経塚山から法花寺地区に流れる湧水を町内外の人に利用してもらいたいと、地元の法花寺里山保全会が中心となって新設された水汲み場です。整備された壁面には地区の人たちの手で植えられた可憐な花々が並び、清らかな水とともに癒される場となっています。また、水汲み場の近辺にはフジバカマが植えられており、秋になると花を求めてアサギマダラが飛来します。



山田湧水

町の北部にそびえる鹿鳴越連山に降り注いだ雨水が良質な湧水となり、町内のいたる所で湧き出しています。なかでも豊岡地区にある山田湧水は特に「名水」と呼ばれるほど人気の湧水地です。地元の人はもちろん、近隣からも水汲み客が空の容器やペットボトルを手に訪れます。山田湧水の水で淹れるお茶やコーヒーは大変おいしいといわれます。周囲には棚田が広がり、美しい景観も楽しめます。

サカナがおいしい

日出の鰻



日出町は高級魚である「鰻」の産地としても知られています。日出町の鰻は、低水温の生簀に数日間入れる「活かし込み」を行っているため、鰻特有のクセがなく、非常に美味しいと評判です。日出町内の料理店では夏から秋にかけて鰻料理がお目見え。産地ならではの新鮮な鰻を味わってください。

歴史を感じる

日出城址

初代日出藩主、木下延俊によって築城された日出城の城跡は、現代では町民の憩いの場として親しまれています。城跡を登ると別府湾を望み、城跡の周辺には春になると満開の桜が咲き誇ります。城跡内にある小学校には鐘突き堂が残され、児童が当番制で鐘を突くという習わしがあり、日常的に歴史が受け継がれています。



城下かれい

城下かれいは、県外でも高い知名度を誇る日出町特産のブランド魚です。海底から真清水の湧く日出城の下の海中に生息する「カレイ」のこのことを「城下かれい」と呼んでいます。海水性・淡水性のフランクトンを食べ育てただけに、味は淡泊で上品。旬は春から初夏。毎年5月には城下かれい祭りが開催され、高級魚を手頃な価格で食べられる賞味会は大変な人気です。



景観を楽しむ

城下海岸遊歩道

日出城址のふもとにある城下公園の下には、豊岡地区まで続く海岸線に沿って遊歩道が整備されており、高崎山と別府湾の美しい景色を眺めながら散歩、ウォーキングができます。春は城下の桜を愛でながら、朝、夕の景観を楽しむ遊歩道です。

